【中学校国語】 概要・課題・改善の方向

中学校　国語

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「書くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

□「読むこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「言語事項」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

□「話すこと・聞くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「書くこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「読むこと」の平均正答率
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「言語事項」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

●文章の形態に応じて適切な構成などを理解して書くこと。

●様々な文章や資料から必要な情報を集めて整理し、目的に応じて書くこと。

●文章の内容や構成、表現上の特色を読み取ること。

●文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること。

改善の方向

○説明、記録、感想、手紙など、様々な形態の文章の書き方を理解して書く指導の充実。

○複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、目的に応じて効果的に書く指導の充実。

○文章の内容や構成、表現上の特色を読み取り、その効果について考えたり、批評したりする指導の充実。

○漢字について、文脈の中で意味を理解する指導や、字形や画数、読みなどを、書写と関連付けた言語活動の充実。

分　類	区　分	全国との比較（A）	全国との比較（B）
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	書くこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	読むこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	言語事項	ほぼ同程度	ほぼ同程度
問題形式	選択式	ほぼ同程度	ほぼ同程度
	短答式	ほぼ同程度	上回っている
	記述式	ほぼ同程度	ほぼ同程度

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±３ポイントの範囲内。

指導改善事例　【中学校国語】　書くこと①

【改善の方向】
説明、記録、感想、手紙など、様々な形態の文章の書き方を理解して書く指導の充実

【「書くこと」について】
- 様々な形態の文章を書く指導においては、日常生活における活用場面を生徒に意識させるなど、目的意識、相手意識をもたせるようにする。
- 手紙などの実用的な文章の指導においては、形式はもちろんのこと、形式の意味を考えたり、表現を工夫できるような活動を組み、書くことに親しませる。
- 論理的に書く能力を育てることは、論理的に考える能力の育成につながる。説明的文章教材の論理展開を参考にしたり、発表や討論などの学習と関連させるなどして、思考力が高まるよう系統的に指導する。

【改善に向けての学習活動例】
- 電子メールと比較しながら手紙の書式を理解し、手紙を書く。
- 電気製品の取扱説明書を、小学生向けに書き直す。
- 安易な表現を制限して感想文を書く。
- 構成を指定して感想文を書く。（会話文で書き出す、回想場面を入れる等）
- 構成を指定して説明文を書く。（序論・本論・結論、設疑法、ナンバリング等）
- 付せん紙で反論を付け合い、反論を想定した論説文を書く。

授業展開例

【第１学年　感想を明確に】

◆２種類のモデル作文を示し、どちらがより感動が伝わるか考えさせる授業

- 単純な用言だけを使って述べた感想文と、具体的な動作を表す叙述を用いながら、感動を伝えている作文を比較して、その違いについて話し合う。
- 「おもしろかった」「とても楽しかった」「疲れた」型の作文と「手に汗をかいていた」「座り込んだ」「息を呑み目を凝らした」型の作文の比較。

◆「おいしい」「好き」を使わずに、自分の好きな食べ物を紹介する短作文を書き、交流する授業

◆「楽しい」「思い出」「疲れた」を使わずに、行事などの感想を書き、交流する授業

□条件にかなう文章となるよう、表現を吟味しながら繰り返し書かせる指導を行う。

【第３学年　立場を変えて書く】

◆学習状況や興味・関心などに応じたコース別学習を通して、楽しく習熟を図ることをねらいとした授業。

◆テーマ（例・赤ちゃんポストを考える）について資料を配付し、自分の考えを短く書かせる授業

◆典型的な数種類の意見を掲示し、自分がどの意見に近いかを考えさせる授業

- 付せん紙を配布し、自分以外の意見に対する反論を書き、掲示物に貼らせる。
- 自分の意見に貼られた付せん紙を読み、メモをとる。

◆テーマについて論説文を書く授業

- メモを参考に反論を想定し、それに対してさらに反論する構成で書くように指導する。

□文章の構成を意識し、自分と異なる意見をもつ読み手を想定しながら書かせる指導を繰り返すことで、公平性を保つ文章が書ける。

授業展開例　「書くこと」

2年　様々な形態の文章の書き方を理解して書く。			
教材名	お礼の手紙を書こう	3時間扱い	6月

◇本調査では、様々な形態の文章の書き方について課題がみられた。本展開例は、手紙文の形式を理解しあいさつ状を書くことをとおして、相手や目的に応じて効果的な文章を書くことのできる能力を高めることをねらいとしたものである。手紙文の学習においては、決まり事だけでなく、用件や自分の気持ちを丁寧な言葉で表現できるようにさせることが必要である。また、季節感を表現する楽しさを味わわせるなど、手紙に親しませるような工夫も取り入れたい。

【教材の目標】
手紙文の特徴や形式を知り、自分の言葉で礼状を書くことができる。

展　開　例

学習内容・活動等

問題提示

手紙の書き方を知ろう

1　手紙文と電子メールの例を示しそれぞれの特徴を考える。
・親戚に卒業祝いの礼を伝える手紙やメール
・申し込み方法を問い合わせる手紙やメール

【共通点】礼儀正しく気持ちや用件を伝える。
【相違点】

<手紙>	<電子メール>
・急ぎでない時 ・心を込めたい時 ・丁寧に	・急ぎの時 ・すぐ返答がほしい時 ・簡潔に

改善のポイント
身近なもので比較させる
身近と思われる電子メールと比較することで、手紙ならではの特質を考えさせる。

改善のポイント
学習意欲を高める工夫
活用する場面を意識させ学習の目的意識を高める。メールのタイトルや署名等と関連付け、それぞれ守るべき形式があることを意識させる。

2　手紙の形式を理解する。

①拝啓・敬具
②時候のあいさつ
③後付　等

・時候のあいさつを作って交流する

改善のポイント
手紙ならではの表現の楽しさに触れる
中学生らしい時候のあいさつを考えて交流することで、形式だけではなく表現の楽しさが手紙にあることを感じさせる。

3　モデル文を参考に、穴埋め式で手紙文を完成し、便せんに視写させる。

改善のポイント
手紙の書き方の注意事項
なぞり書きにならないように注意する。

改善のポイント
形式を想起させ、活用できるよう配慮する
穴埋めでは第３時の手紙（礼状）とは異なる場面を設定して練習することで、実際の場面では自分の言葉で表現できるようになることをねらう。

4　礼状を作成する。

□手紙文の基本的な形式を理解し、日常生活において活用できるようにする。

指導改善事例 【中学校国語】 書くこと②

【改善の方向】
複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、目的に応じて効果的に書く指導の充実

【「書くこと」について】
・カードなどの非連続テキストを含めた様々な資料を用い、情報を効果的に整理するよう指導する。
・複数の資料を比較して、共通点や相違点を整理し、目的に応じて書くことを指導する。
・整理した情報を、目的に応じて活用しながら、自分の考えを書くことを指導する。

【改善に向けての学習活動例】
・本に関する情報を整理し、相手に応じて、様々な方法で本を紹介する。
・複数の資料を比較して、文章や具体例や写真を挿入したり、文章を要約、添削したりする。
・目的に応じて、様々な情報を集め、批評したり、編集したりする。

授業展開例

【第１学年 「ブックリレー」】
◆読書活動の楽しさを味わいながら、交流を設けることで紹介文を書く力を付ける授業

1 近隣の小学生に、アンケートを取る。

・好きな作品や興味のある作家を調査する。
・アンケートの作成に当たっては、小学生を意識して、分かりやすいものとなるよう工夫する。

2 アンケート調査の情報をもとに、聞き手の関心が高い本を読み、小学生に紹介する。

・紙芝居やペープサート、ポップなど、紹介方法を工夫する。

3 中学生が紹介した後、小学生が興味をもった方法で、中学生と交流しながら、本の紹介をする。

・聞き手であった小学生が、話し手となるよう配慮する。

□本を紹介する中で、本の特徴など、的確に紹介するために必要なことを書く。

【第２学年 「文章を書き換えて、他の文章に活用する」】
◆他の資料を探し、よりよい説明文に作り替える授業

1 もとの説明文の「改善点」を明確にする。
2 どの部分にどのような具体例を補うかを考える。
3 具体例として適切な情報を探す。
4 もとの説明文に挿入できるように、文体や接続の言葉、修飾語や表記に注意しながら書き換える。
5 グループで互いに読み、改善点を出す。
6 アドバイスをもとに、文章を推敲する。
7 全体で交流し、「文章を挿入する際に重要なこと」を理解する。

・単に比較するだけではなく、「よりよい具体例を挿入するため」といった具体的な目標をもたせ、話し合いの必然性をもたせる。

□具体例の内容、表記方法など、適切な展開、記述の方法を意識化する。

３年　複数の資料の共通点や相違点を整理し、目的に応じて編集する。			
教材名	社会生活の問題点を明らかにする記事を作ろう	4時間扱い	9月

◇今回の調査では、複数の資料の共通点や相違点を理解して書くことに課題がみられた。本展開例では、文章を書いた後に互いの文章を読み合うことによって、共通点や相違点を整理し、自分の表現をよりよいものにすることをねらいとしたものである。

【本時の目標】
・それぞれが書いた記事について相互評価し、アドバイスし合うことで自分が編集した記事をよりよいものにすることができる。

展　開　例

学習内容・活動等

前時までに、情報を収集・編集し、自分の意見を加えた記事の下書きを書き終えている。
《記事の例》地球温暖化について
・異常気象・海面上昇・二酸化炭素排出権・二酸化炭素以外の気体の増加・砂漠化の進行等

改善のポイント
情報収集の取り扱い
情報のもととなる適切な記事が準備されているか。

改善のポイント
自分の意見の作成
自分の意見を文章化させる場合、事象を理解した上で、改善策を意識させながら、偏りのない意見となるよう配慮することが必要である。

問題提示

記事をよりよく編集しよう

１　グループ内の文章を全員が読む。

２　グループ内で相互評価をする。

改善のポイント
総合評価
読み手にとって分かりやすい記事となっているかどうかを、総合評価の観点に基づき、意見を述べ合う。推敲のポイントをとらえ、次の作業に生かすよう促す。

３　全体で改善点について話し合う。

＜相互評価の観点＞
①選んだ資料は適切か。
②資料の配列は適切か。
③引用の場所や、要約の仕方は適切か。
④多面的な見方になっているか。
⑤公正な記事になっているか。
⑥問題点が明らかになっているか。

・付け加えるべきポイントがあれば全体で確認する。

改善のポイント
指導の手立てを工夫する
努力を要する生徒には、他者の記事の良い点を考えさせた上で、その配列や引用を参考にするよう促す。

４　意見を参考に、自分の文章を推敲する。

□構成や表記を工夫することで、よりふさわしい問題提起の記事となることを理解する。

指導改善事例　【中学校国語】　読むこと

【改善の方向】
文章の内容や構成、表現上の特色を読み取り、その効果について考えたり、批評したりする指導の充実

【「読むこと」について】
- 文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすることができるよう指導する。
- 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てることができるよう指導する。
- 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができるよう指導する。
- 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができるよう指導する。

【改善に向けての学習活動例】
- 与えられた文章をある程度の字数制限の中で要約する。
- 登場人物の人物像を表現に基づいて理解したり想像したりする。
- 登場人物の生き方や作品から受けるテーマ性について、自分なりの考えを持ち、それを表現する。
- 作者や語り手の視点に立って表現の意図することを想像する。
- 語句の使われ方や表現の工夫、特徴等に気付き、その効果を感じ取る。

授業展開例

【第１学年　『オツベルと象』】

◆登場人物にかかわる表現に着目し、それぞれの人物像をとらえることをねらいとした授業

１　オツベルの人物像について、表現を手がかりに話し合う。

- 自己中心的でずる賢い。
- 欲望や損得を第一とし、そのためには巧みに裏表のある言葉を使う。

２　白象の人物像について、表現を手がかりに話し合う

- 純粋でお人好し。
- 他を信じ、自らの欲望にこだわることなく平和に生きる。

３　最後の場面で、白象はなぜ「寂しく笑っ」たのかを自分の言葉で表現する。

- オツベルの死への悲しみ。
- 自らの弱さや愚かさへの気付きと自嘲。
- 仲間への思い。

□登場人物の心情にかかわる表現を比較しながら人物の変容を読み取る。

【第２学年　『夏の葬列』】

◆表現の巧みさに着目し、主人公の心情を想像することをねらいとした授業

１　「自分には夏以外の季節がなかったような気がしていた。」という表現の意味を分かりやすく説明する。

２　「彼は彼女のその後を聞かずにこの町を去った。」という表現から読み取れる主人公の内面について話し合う。

- 怖かった。
- 時間的・心理的余裕がなかった。
- 逃げ場所を残しておきたかった。など

３　「ある予感」がもつ意味について考える。

- 救われたいという主人公の思いの強さ。

４　表現の効果を味わう。

- 主人公の幸福感を表すもの。
- 「はなを垂らした子」によって真実がもたらされることの効果。

□表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、主人公の生き方を考える。

授業展開例　「読むこと」

3年　文章の内容や構成、表現上の特色を読み取り、その効果について考えたり、批評したりする。			
教材名	ウミガメと少年	4時間扱い	9月

◇今回の調査では、文章の内容や構成、表現上の特色を読み取ることに課題がみられた。本展開例は、本教材の目標「少年とウミガメの二つの視点と、その意味をとらえる。」を基本のねらいとしながら、文体の特徴をとらえるとともに、最終的にウミガメに転生していく少年の姿に込められた作品の批評性を理解することをねらいとしたものである。

【本時の目標】
・少年の生がウミガメの子の生に転移していく過程を読み取り、そこに込められた作者の思いを想像する。

展　開　例

学習内容・活動等

前時までに、初発の感想、前後半に分けられる構成、ウミガメと少年それぞれの視点から見た戦争の違いについての学習を終えている。

問題提示

少年の最後の表現部分の不思議と、そこに込められた意味について考える。

改善のポイント
構成をとらえる
その他の場面も含めて、ウミガメと少年の視点が対応するように書かれていることに気付かせる。

改善のポイント
学習意欲を継続させる
作品の構成やそれぞれの視点から見た戦争の違いについてはワークシートを活用する。

1　少年がどうなったかをとらえる。

①「P48L1～L5」と「P38L15～P39L15」を読み比べる。
・「フッと」　　　　⇔「あったかい」
・「海はカメのもの」⇔「海の水が甘い」
等の表現の対応に着目する。

②両者の共通点をもとにして、少年の行方について話し合う。

改善のポイント
場面の展開に注目させる
卵を食べてしまう場面を通して、少年が自我を喪失していく過程についてたどらせる。

2　少年の行方に込められた作者の思いについて話し合い、自分の考えをまとめて書く。

・人間の生とウミガメの生、戦争の悲惨や自然の摂理、転生とその意味などの内容を理解し、自分の考えに生かして書く。

改善のポイント
作品を作った作者の思いに触れる
作者は、なぜ作品を通して、少年の生をウミガメの生に転移させたのか、その意図について考え、作品を評価する文章を書かせる。少年が卵を食べ、卵化していく様子やウミガメとなって海に帰っていく様子をとらえさせる。

改善のポイント
自分の考えの変容を評価する
話し合いの形態を工夫する。その際、初発の感想を話し合いの材料として用意する。

□視点を意識した作品構成に着目して、主題を読み取ったり、評価したりする。

指導改善事例　【中学校国語】　言語事項

【改善の方向】
　漢字について、文脈の中で意味を理解する指導や、字形や画数、読みなどを、書写と関連付けた言語活動の充実

【「言語事項」について】
・漢字や語句を意識させるため、年間を見通して、様々な場面での指導が必要である。また、授業の中で、短い時間を利用し、継続的に指導することも重要である。
・「漢字」については、字形や画数の指導はもちろん、辞書を活用して正確な意味をとらえる力や、文や文章の中で漢字を使う力が大切になる。
・「書写」については、文字を正しく速く書くことが求められているが、特に行書について、楷書との違いを意識してその特徴を理解し、普段から意識的に使用する機会をもつことが必要である。

【改善に向けての学習活動例】
・折に触れ国語辞典や漢和辞典を活用する。
・漢字の書き取りを、訓読みや熟語の形だけではなく、単文や、漢字・熟語等をいくつか併せて文章の形で行う。
・同音異義語や同訓異字が使われている文を書き取る。
・慣用句、故事成語を使った文章を書く。
・音読みと訓読みの二種類の読み方がある熟語などを文脈の中で読み分ける。
・行書の筆脈を確認することで、漢字の筆順に対する意識をもたせる。
・詩歌の授業の最後に、教材を行書で書く。

授業展開例

【第１学年　行書体で書かれた漢字から正しい漢字の筆順を考える】
◆書写の教科書の行書の筆脈を参考にしながら、漢字や部首等の筆順を確かめる授業

１　字形や画数を確認し筆順に気付かせる。

・書写の教科書の行書で書かれた文字の筆脈をたどる。

２　ひらがなの字源を調べる。

・楷書に調和する仮名「いろは歌」を学習する。
・平仮名の字源の漢字を調べる。
・行書の特徴を確認し、字源の漢字を４～５段階程度でくずしながら、ひらがなに変化させる。
・自分がこれまで書いていた筆順と異なるものがないか発表し合う。（例左→さ、乃→の等）

□書写の行書に関する指導と関連付ける。

【第２学年　漢字の意味を正しく理解しながら使う】
◆表意文字である漢字の特徴を生かしながら、文脈の意味を理解し、漢字を正しく表記させる授業

グループ対抗の伝言ゲームを通して漢字の理解を図る。

＜伝言ゲームのルール＞
・書かれた文章を読み上げ、次の人が書き写していく。（文中の漢字は漢字で書く）
・分からない漢字は、その漢字が使われている別の語句で理解させることとする。
（例文１）犬に**関心**があったので、**飼おう**と思い犬小屋を**買った**が、最近の犬小屋の立派さには**感心**した。
（例文２）**初めて会った**人だったが、すっかり気が**合い**友達づきあいが**始まった**。

□漢字が分からないときは、別の語句に置き換えると分かりやすいことを学ぶ。

3年　行書の字形や文字の配列、配置について意識を高める。			
教材名	近代の俳句	4時間扱い（本時4/4）	9月

◇今回の調査では、行書の字形や画数の理解について課題がみられた。本展開例は、「読むこと」が中心となる教材において、授業の中で書写を取り入れ、文字に対する興味・関心を高めることを指導のポイントとしたものである。

【本時の目標】
本文中の自分の選んだ俳句を、色紙上に文字の配列・配置を意識し、正しい行書で書くことができる。

展　開　例

学習内容・活動等

本時までに、俳句の知識や鑑賞、技法に関する学習を終えている。

問題提示

行書を用いて選んだ一句を色紙に書く。

1　教科書中の題材の中から一句、自分の好きな句を選択する。
・選択した句については、暗唱できるようにしておくことも効果的である。

2　行書の形を、書写の教科書等を参考にして確認する。

3　色紙と同サイズの練習用紙に練習を始める。

4　書きあがった下書きを、グループ内で評価し合う。

<相互評価の観点>
・筆順や筆脈に注意しながら、文字が行書として適切であるか。
・用紙にバランス良く文字が配列されているか。

5　グループ内での話し合いを参考にして、清書を仕上げる。

・書き上がった作品は、学級内で鑑賞したり、廊下等に掲載して、相互評価させる。

改善のポイント
書く字句について
本例では、俳句としたが、古典や文学作品の一文、一節等、幅広く考えられる。

改善のポイント
グループ編成について
評価を行うグループは、生活班の活用の他、同じ句を選択した者同士や同じ教材の中から表現を選んだ者同士でつくることも考えられる。

改善のポイント
使用する用紙について
色紙が準備できなければ、「色紙練習用紙」でもよい。短冊や扇面など、様々な大きさや材質の用紙を用いることによって、適切な大きさや太さの文字の配列を学習することもできる。

改善のポイント
筆記具について
毛筆による書写の指導との関連から、小筆を使わせたい。（サインペン、フェルトペン、筆ペンでも可）イメージ画を添えることで、一層生徒の意欲を喚起することができる。